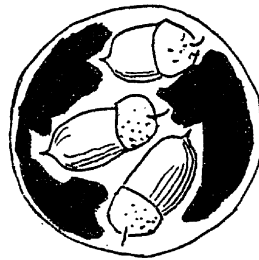


農業



平成29年12月号
会誌 No. 1632

目次

総裁 秋篠宮殿下……………染 英昭 3
茨城県の農事功績者表彰受章農家をご視察

巻頭言

農業革命は人間を不幸にしたか……………林 良博 9

論 壇

農地に転用……………生源寺真一 10

農事功績者座談会

水稻作に黒大豆・施設イチゴを取り入れた法人経営…………… 12
私の経営と農業への思い……………田淵 清彦 12
現地指導者のコメント……………松本 有一 20
意見交換…………… 22

表彰農家訪問

チャ（茶）レンジャー精神のもと国内最大級の
茶業経営を展開……………平岩 進 31
－鹿児島県志布志市に堀口泰久さんを訪ねて－

農業・農村の現場から

大阪から女性一人で移住。ミカン農家を
20年間続けられた理由……………中村 貴子 41
－熊本県宇城市三角地区で夢のミカンづくりを求めて－

世界の農業は今

ロシアの穀物生産・輸出の拡大とその背景……………長友 謙治 46

私の経営と志

父から自分へ，自分から息子へ……………高田 定道 51

統計情報

平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）…………… 53

農政情報

平成29年度農業技術功労者表彰…………… 54

大日本農会だより…………… 55

編集部から…………… 56

「農業」年間総目次…………… 57

表紙写真説明

あんぼ柿の乾燥（福島県伊達市）

『あんぼ柿』に使用するカキの品種は「平核無」や「蜂屋」の渋柿で，10月下旬から収穫が始まる。選別，5～7日程度追熟させ，皮むき，連作り（皮をむいたカキを吊るす縄等に取り付ける），皮を剥いたカキは，^{いおう}硫黄で^{くんじょう}燻蒸して殺菌し，写真のような干場に約30～50日間干し，完成する。天日での自然乾燥が一般的であるが，火力乾燥や遠赤外線の利用も図られている。

『あんぼ柿』のポリフェノールが健康食品と評価され，人気が出ていた矢先の平成23年（2011）3月に発生した原発事故による放射能汚染で，加工自粛要請を受けることになった。それ対して，産地では除染，安全な原料カキの確保，農業生産工程管理への取組，全出荷品の非破壊検査体制の構築に取り組んできた。このような産地の努力により，『あんぼ柿』の集荷実績は着実に回復してきている。

なお，本誌平成29年（2017）3月号には『あんぼ柿』の産地形成，そして加工自粛要請後の産地復興に大きく貢献された福島県伊達市の宍戸さんご夫妻の「表彰農家訪問」の記事が掲載されている。

（編集部）